

私と図書館との記憶は五歳ころからだ。父に連れられ、よく地元の図書館に行った。また、バーコードが普及する前の図書館は貸出カードを管理する形だったのを覚えている。

小学生の時は一人で図書館に行き、主に伝記を読んでいたので思う。漫画で描かれていたので読みやすかったからだ。午前中から図書館に入り浸りお昼ごろいったん消え、午後また現れる子どもは図書館のひとからは奇異に見えていたに違いない。ソファの片隅で昼寝までしていたのだから。

そうして順調に本好きになり、図書館好きになったようにみえるが、私にも本を読んだ記憶がない時期がある。小学校高学年から中学生のいわゆるヤングアダルトの時期だ。別にそんなことはないのに、児童書を読むのは恥ずかしい。かといって大人の本は難しい。そんなわけで本からは遠ざかっていった。部活動に忙しかったという理由もある。高校生になると頭のレベルも追いつき、堂々と大人向けの小説を予約し読み漁った。

わたしと 図書館 本橋 葉子

本来ならヤングアダルト時代に読むべきだった長編の児童書に目を向けるようになったのは大人になってからだ。タイトルに惹かれてふと手に取った本に私の好きな画家の挿絵が入っていた。読んでみるとそこには大人の本にはない不思議で素晴らしい世界が広がっていた。今まで何をしていたのだろうか？と中学校時代を悔いた。今いろいろな児童文学が映画化されているが、原作はもう何年も前に書かれた物であることが少なくない。それは長年、子どもたちに読み継がれ感銘を与えている作品だからだろう。

図書館は時代のニーズにあわせ、新しい本を常にそろえていくことも必要だろう。しかし、読み継がれていく本をちゃんと保存しているところも私の好きなお店だ。子どものころ何度も読んだ懐かしい絵本を今でも読むことが可能だ。現在子育て真っ最中の私は、いつの日か子どもと児童書を読み競い、紹介し合えるようになるために、今できる限りの範囲で読み聞かせをしている。本離れの時期がこないことを祈りながら。

地域・行政資料室にある 図書以外の形態の 資料を紹介いたします。

地図については、西東京市発行の都市計画図や道路網図、市民マップなどのほかに、発行年・縮尺・範囲の異なる各種地図、江戸大絵図など複製し販売されているもの、イラストマップなど多岐にわたり収集しています。国土地理院発行の二万五千分の一地形図は日本の国土を表わす基本となる地図です。西東京市は図名《吉祥寺》にその大部分が、《志木》に北域の一部分が表わされています。大正六年のものから閲覧できます。

写真は、市史編さんの際に集められたものや市広報広聴課などから移管されたもの、市民の方から寄贈されたものなどがあります。一部はパネルに仕立てられ、小・中学校や市内の行事会場で利用されています。

このほかにも、ポスターやチラシ、航空写真、CD等の音の資料や映像資料、ホームページからの検索もできる新聞記事データ、新聞折り込み広告、市内小・中学校の周年記念時に配られる記念品など、図書館で保存可能なものを幅広く収集しています。

「なつかしの田無・保谷」写真パネル 図録「西東京市誕生10周年記念」を 有償頒布します。

平成十九年から開催してきた写真展でご要望の多かった公開写真パネル

ルの図録を西東京市誕生10周年記念として作成しました。パネル写真のほかに、「地租改正絵図」(田無)・「大絵図」(保谷)や「御検地帳」の一部のカラー写真、パネルにしていない図書館所蔵写真、資料案内のコラムなどを盛り込んだ内容になっています。図書館資料としても各館に用意しますので是非ご覧ください。

頒布開始日 1月21日(金)

頒布価格 一部五百円

頒布場所

①西東京市役所田無庁舎及び保谷庁舎の各情報公開コーナー

②西東京市中央図書館 地域・行政資料室(ただし、平成23年12月28日まで)

編集後記

「情報はまずはパソコンで検索」という昨今、出版流通ルートに乗る図書や雑誌の情報は発売前でも容易に入手できます。ところが地域に関する資料の情報は住民や団体の方々からしか得られないものが大半です。自作製本のたった数冊しかない本や会報誌などは、図書館が収集し所蔵することで検索対象の資料となり、図書館のホームページを通して多くの人々にその存在が知られることとなります。一見地味な地域・行政資料サービスの役割は、地域住民への情報提供や資料保存に加え、世界中への情報発信でもあるのです。